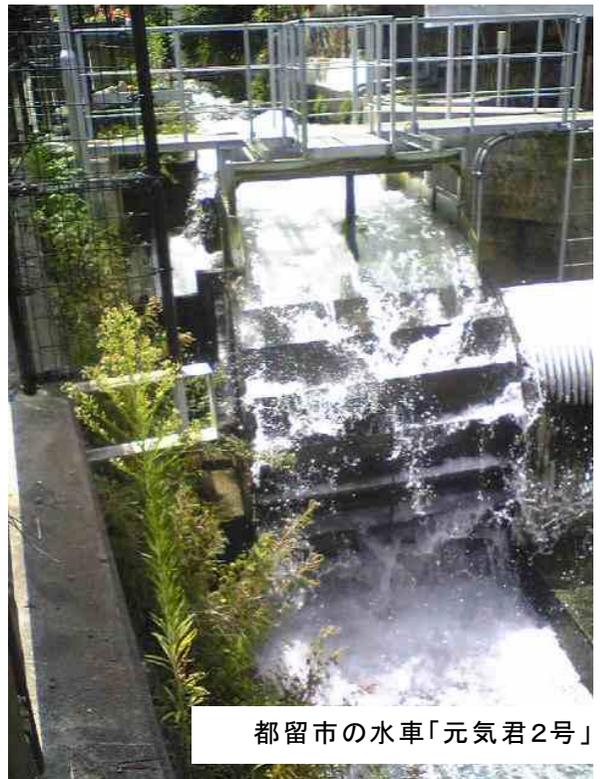


# 小水力発電の実際を見に行こう

2012年8月31日(金) 参加10人

「水車発電?どこに水車を作るっていうの?」と最初は半信半疑でしたが、調べてみると「小水力発電」は実はすでにあちこちで現実に作られ、利用されているのです。大震災と原発事故、その後の計画停電などを経験して、電気のことを考え始めた人は多いと思います。原発に限らず大規模ダム、火力発電所など環境負荷の大きな発電でなく、小規模で環境負荷の少ない発電をあちこちで行うのいいのではないかと。電気の地産地消とも言われ始めています。よくわからないけれど、とにかく見に行ってみよう、というのが今回のツアーでした。そして、さらに次の学びにむかって進む、足がかりにもなりました。

小水力発電については、「全国小水力利用推進協議会」の「小水力発電ニュース」というホームページがわかりやすく、最新の情報もあります。検索してみてください。



都留市の水車「元気君2号」

一般社団法人 シビル

〒190-0023 東京都立川市柴崎町

3-10-4

TEL/FAX042-524-9014

e-mail

## 小水力発電を見に行きました。

山梨県都留市が震災前から町おこしの一つの目玉として始めた「小水力発電」の水車を見に行く機会があり、昨日行ってきました。

都留市は自然に恵まれた土地なのに、これといった観光の目玉もなく、近隣の河口湖や山中湖などに観光客は行くが、都留市は通過地点になっています。人口3万人の市としての財源確保に迫られ、それなら「エコ・環境」のまちにしようということで、市民と行政が協働で始めたのが、水車を使った「小水力発電」だったのだそうです。

都留市の市役所使用電力の75%をまかなうそうです。水車「元気くん1号」から「元気くん3号」までの3台の水車が動いています。しかし水車を作るには法律や水利権など制度上の問題がたくさんあって、なかなか広がらないそうです。また実際に電力をこれでまかなおうとしても、市役所で使う電気としては直接使えても、他で使うには東電を通さざるをえず、電力の地産地消は簡単ではありません。しかし、都留市としては様々な工夫をこらし、これを続けていけるようにと頑張っている様子は伺えました。詳しくは書きませんが、近いので関心ある方はぜひ一度行かれたらよいと思います。

団体向けに案内してくれる担当職員がいて、とても丁寧に説明してくれ、資料などもしっかりと用意されています。3. 1 1以降は見学の団



都留市の水車「元気くん1号」



体が多く予約していかないとだめですが、空気もいいし個人的に水車を見るだけならいつでも見られます。

(たねまきネットのブログから)

私たちが訪れた日はちょうど都留の八朔祭の宵宮の日。普段はミュージアム内に展示されている立派な山車が外に出ていました。ぜひお祭を見てほしいと、都留市は観光宣伝にも熱心です。

## 都留市における小水力発電を見学して

8月31日（金）、山梨県都留市に水力発電の見学に訪れた。

都留市では現在3台中規模な水力発電用の水車、“元気くん”が置かれている。それらから得られる電力で市役所の消費量の約7割がまかなわれている。

この都留市を訪れて得た大きな感想は、良くも悪くもまるでテーマパークのような街だということだ。視察に訪れた人に説明する段取りができており、水車も実用性よりも視覚的な効果を重視したつくりとなっているとのこと。水力発電を市の目玉として活用しようという意気込みが感じられた。水車を見学に行くために市内を歩くルートでは、あまり一般的ではない水力発電をしようと思ったのもうなずける都留市の水の豊かさが感じられた。しかし、同時に小さくまとまってしまっている印象も受けた。水力発電で得られた電力は一般家庭へは普及させず、また今後普及させていく予定もないという。利益を求めるのではなく、あくまで他都市へのモデルとして観光に役立てようという姿勢は理解できるし、実用化には労力と資金がかかって元を取れない可能性も高いが、今後の小水力発電の発展を考えると実用化を目指してほしいと思う。

なににせよ、このような地域の取り組みを見学するのは初めてであり、とても面白い経験ができた。（原 由子）

---

「元気くん2号」の少し上流。水の流れは怖いほど勢いがよく、水車が壊れる可能性があるためか水量が多すぎると水車を止めるらしい。この日、今年できたばかりの「元気くん3号」は動いていなかった。江戸時代に作られた用水が現代の貴重な資源になっていることが興味深い。



# 小水力発電の実際を見に行って ・・・それだけでは終われない！！

2011・3・11以降、エネルギー問題は世の中を変えるかの勢いで議論され始めました。しかし政府は停止中の原発を再稼働させようという動きを変えていません。

シビルの企画で8月31日に山梨県都留市の小水力発電の水車を見に行っただけの人たちで、自然エネルギーを作るということを試みている人や地域の探訪をしてみたいという話になりました。それをシビルの市民講座として企画してみようと、早速その打ち合わせを始めています。

すでに小水力発電に取り組み始めている各地の実例や太陽光発電に取り組み始めようとしている多摩市の例について知りたい、小水力利用推進協議会の人に来てもらって話を聞きたい、チェルノブイリ後に市民が自然エネルギーの電力供給会社を作った「シェーナウの想い」という映画を見よう、など、いろいろ出たアイデアについて手分けして調べています。自治体として小水力発電に取り組んでいるという松本市、たくさん水車発電がある大町に行ってみようという案もありますが、まだ都留に行ったことのない人を誘って、再び都留を訪れるツアーも考えています。

興味関心のある方はぜひご参加ください。また市民講座企画ができればあらためてお知らせしますので、そちらにもどうぞ足をお運びください。今ホットな話題です！（遠藤 良子）

## スタッフから

出かける前のムシムシした空気が、休憩で車を降りた談合坂では一変してさわやかな高原の風になっていました。そして都留で見た清流にすっかり魅せられた…のも、この日の感動の一因かもしれません。しかし、小水力発電は、実はさわやかな清流が必要条件なのではないのです。都留のように「見せる」開放型ではなく、地道な閉鎖型の発電は意外とあちこちですで行われているようです。小水力利用推進協議会のホームページを見てみると、たとえば渋谷のNHKでもビル内冷却循環水を使った発電をやっているらしい（7kwですが）。できた電力をどのように使うかというしくみのことも考えていかなければいけないと思いました。（河野）

会計報告	参加費計	13,600円
	チラシ作成	1,000円
	ガソリン・高速代	3,000円
	都留市研修費	8,000円
	支出計	12,000円